



第4会場●4F 大研修室

■司 会／吉岡 康行 広島県教育委員会 生涯学習課 主任社会教育主事
安達 浩文 福岡県教育庁南筑後教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 家庭教育リーダーの養成と修了生グループ「さんかく」の活動支援 10:50~11:20

三角 幸三(熊本県熊本市) NPO法人チェンジライフ熊本 理事

家庭教育リーダー養成事業は熊本市の委託であるが、事業終了後、研修生の活躍の場が保障されておらず、サポートも不十分であった。当法人は、研修の成果は「社会参画」と意識し、「2時間×11回」の長期参加型講座を実施し、21名が修了した。研修成果を具体的に社会還元できるよう、研修方法においては、「ファシリテーター機能」の習得を重視し、研修後の活動の場については、人材バンクに登録したり、講師陣の補助を務めたり、プログラムの企画に参加する機会を提供するなど支援を継続した。将来的に、事業の受託が継続できれば活動の場が保障できるので、法人としては他の委託事業にも挑戦し、併せて研修を終了した子育て支援グループの存在を広く広報していく事が課題である。

2 「たくミュージカルカンパニー」の創造機能
～手づくりミュージカルが生み出す新たなコミュニティ集団の成果と意義～ 11:25~11:55

川内丸信吾(佐賀県多久市) (財)孔子の里たく市民大学ゆい工房 座長

自己表現力、コミュニケーション能力を有する新たな地域集団を育成する方法として市民自らが創造するミュージカル劇を選択し、総勢100名が歌やダンスや演技はもとより、ミュージカル誕生に至る全ての領域の企画・制作・運営・公演の各プロセスに関わって来た。オーディションは行うが基本的に全ての希望者を受け入れ、市民集団が相互に協力し、知恵を出し合って新しい事業をつくりあげていく過程は極めて協働的であり、教育的であり、連帯感を醸成する。ミュージカル創作の成果は、参加者の参画意識、出演者の姿勢、保護者の自主性、市民の関心の向上など多方面で顕著に現れている。ミュージカル公演は、多久市中央公民館、佐賀市民会館、佐賀市文化会館などで披露し、社会的評価にも挑戦している。

3 「生石子どもいきいき教室」が生み出した地域協働のシステム
～地域は子育て応援隊～ 12:00~12:30

角田 敏郎(愛媛県松山市) 生石子どもいきいき教室実行委員会 会長
松山市生石公民館 館長

平成19年「放課後子ども教室」の受託が本格活動の開始である。平成22年度の年間活動日数は214日、協力ボランティア数は延べ713名である。活動には学校と公民館を併用し、プログラムは各種「日替わり」のメニューを提供している。特徴の1つは愛媛大学教職課程に在籍する学生の「地域実践プログラム」の舞台として位置づけていることである。活動の積み重ねが子どもを変え、関係者の意識を変え、地域の子育て「応援隊」の機運を醸成しているが、協力者の中核は高齢者であり、その輪はからずしも広がってはいない。また、特別な支援を要する子どもも増え、学校との関係は極めて重要であるが、連携が進展するか否かは「校長の経営感覚次第」という状況は変わらない。